

個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号	3	施設管理者	函館市
路線名	戸井川	林道種類及び区分	自動車道２級	橋梁名	No. 1 号橋
施設の所在地	函館市弁才町	起点からの距離	0. 1km	建設年度	1971（S46）
供用年数	48	種別	鋼橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格（設計荷重）	2等橋（TL-14）	橋下条件	金堀沢川

林道管理区分	開放	理由	—			
利用区域内施業計画	計画年度	有（平成30年度～令和5年度）	施業種別	保育，間伐	面積	21. 56ha
	計画年度	—	施業種別	—	面積	—

施設概要	施設の規模	橋長（支間長）	10. 5m（10. 0m）		幅員（車道幅員）	4. 7m（4. 0m）
	施設の構造等	上部工型式	H鋼非合成桁			
			鋼製（使用鋼材）	H型鋼	塗装使用の有無	有
			支承形式	線支承	落橋防止の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
		橋脚工型式	—		海岸からの距離	1. 2km
	施設の目的利用実態等	林道戸井川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、森林施業により頻繁に利用される。また、N O. 2号橋から山頂までの区間には、自衛隊・消防・警察・電力・取水等の公共機関の施設があることから当該施設の利用が必須となる。				

施設の状態等の概要	点検診断日	令和元年9月21日			
	調査結果	本橋は竣工後48年が経過しており、主桁材やボルトナット、支承部等の鋼材の露出部分が腐食している状況にある。主桁材等の腐食については、断面欠損、破断等への進行が懸念される。支承部には著しい腐食、アンカーボルトの緩み、モルタル欠損等があり、機能に異常をきたしており早急な補修対策が必要と判断する。上部コンクリート部分には橋面亀裂等は見られないが、経年摩耗による橋面欠損が見受けられたことから、橋面補修が必要と判断する。			
	健全性の診断結果	Ⅳ 緊急措置段階	橋梁の機能に支障が生じており、緊急に措置を講ずべき状態。		
	劣化原因	長期にわたる凍結・融解の繰り返し作用による劣化。 気象変化（温度差により生じた結露等）や供用年数経過に伴う劣化。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和２年度～令和１１年度		
	内容	鋼部材の腐食・防食機能の劣化，支承部の機能障害，遊間の異常等が確認されている。今後も車両の頻繁な通行が見込まれるため，現状を判断すると本橋は補修工事が必要である。		
	実施予定時期	支承部の損傷等は早急な対策が必要。橋梁区間は公共機関の施設への車両乗り入れのほか，市有林での施業計画があるため，令和３年度から橋梁改良を計画予定。		
	施設の優先度	②	（優先度の考え方） 開放林道，橋長15m未満のため，優先度は「②」とした。	
	対策費用（概算）	橋梁補修費（支承，伸縮装置取替・鋼材錆取塗装等） 14.0 百万円		
管理方法	管理方法	・ 支承等の補修を早期に行う。 ・ 定期的な点検・調査を行う。また，排水施設の清掃・維持作業等を適切に行う。 ・ 一般管理型点検		

	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年	令和 8年	令和 9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）		9. 0		14. 0				0. 8		
対策の内容・実施時期		委託		橋梁補修				定期点検		

備 考
・ 令和元年度に点検実施。 ・ 橋梁の健全度はⅣであるが，利用者が限定されているため，当該施設利用者に徐行運転を周知して開放。

※ 1 不明な項目は「不明」と記入

※ 2 施業計画欄は年度，施業種別，面積が分かる場合に記入

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号	3	施設管理者	函館市
路線名	戸井川	林道種類及び区分	自動車道２級	橋梁名	No. 2 号橋
施設の所在地	函館市瀬田来町	起点からの距離	0. 7km	建設年度	1971（S46）
供用年数	48	種別	鋼橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格（設計荷重）	2等橋（TL-14）	橋下条件	戸井川

林道管理区分	開放	理由	—			
利用区域内施業計画	計画年度	有（平成30年度～令和5年度）	施業種別	保育，間伐	面積	21. 56ha
	計画年度	—	施業種別	—	面積	—

施設概要	施設の規模	橋長（支間長）	15. 5m（15. 0m）		幅員（車道幅員）	4. 7m（4. 0m）
	施設の構造等	上部工型式	H鋼合成桁			
			鋼製（使用鋼材）	H型鋼	塗装使用の有無	有
			支承形式	線支承	落橋防止の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
		橋脚工型式	—		海岸からの距離	1. 7km
	施設の目的利用実態等	林道戸井川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、森林施業により頻繁に利用される。また、当該橋梁から山頂までの区間には、自衛隊・消防・警察・電力・取水等の公共機関の施設があることから当該施設の利用が必須となる。				

施設の状態等の概要	点検診断日	令和元年9月21日			
	調査結果	本橋は竣工後48年が経過しており、主桁材やボルトナット、支承部等の鋼材の露出部分が腐食している状況にある。主桁材等の腐食については、断面欠損、破断等への進行が懸念される。支承部には著しい腐食、アンカーボルトの緩み、モルタル欠損等があり、機能に異常をきたしており早急な補修対策が必要と判断する。上部コンクリート部分には橋面亀裂等は見られないが、経年摩耗による橋面欠損が見受けられたことから、橋面補修が必要と判断する。			
	健全性の診断結果	Ⅳ 緊急措置段階	橋梁の機能に支障が生じており、緊急に措置を講ずべき状態。		
	劣化原因	長期にわたる凍結・融解の繰り返し作用による劣化。 気象変化（温度差により生じた結露等）や供用年数経過に伴う劣化。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和２年度～令和１１年度		
	内容	鋼部材の腐食・防食機能の劣化、支承部の機能障害、遊間の異常等が確認されている。今後も車両の頻繁な通行が見込まれるため、現状を判断すると本橋は補修工事が必要である。		
	実施予定時期	支承部の損傷等は早急な対策が必要。橋梁区間は公共機関の施設への車両乗り入れのほか、市有林での施業計画があるため、令和３年度から橋梁改良を計画予定。		
	施設の優先度	①	（優先度の考え方） 開放林道、橋長15m以上のため、優先度は「①」とした。	
	対策費用（概算）	橋梁補修費（支承、伸縮装置取替・鋼材錆取塗装等） 13.2 百万円		
管理方法	管理方法	・ 支承等の補修を早期に行う。 ・ 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業等を適切に行う。 ・ 予防保全型点検		

	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年	令和 8年	令和 9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）		9. 0	13. 2					1. 1		
対策の内容・実施時期		委託	橋梁補修					定期点検		

備 考										
・ 令和元年度に点検実施。 ・ 橋梁の健全度はⅣであるが、利用者が限定されているため、当該施設利用者に徐行運転を周知して開放。										

※ 1 不明な項目は「不明」と記入

※ 2 施業計画欄は年度、施業種別、面積が分かる場合に記入

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号	11	施設管理者	函館市
路線名	黒羽尻	林道種類及び区分	自動車道２級	橋梁名	第１号橋
施設の所在地	函館市岩戸町	起点からの距離	2.4km	建設年度	1976（S51）
供用年数	43	種別	鋼橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格（設計荷重）	不明	橋下条件	下岩戸川

林道管理区分	開放	理由	—			
利用区域内施業計画	計画年度	有（平成30年度～令和5年度）	施業種別	保育，間伐	面積	35.99ha
	計画年度	—	施業種別	—	面積	—

施設概要	施設の規模	橋長（支間長）	15.6m		幅員（車道幅員）	6.0m（5.0m）
	施設の構造等	上部工型式	不明			
			鋼製（使用鋼材）	H型鋼	塗装使用の有無	有
			支承形式	線支承	落橋防止の有無	無
		橋台工型式	逆 T 式橋台		基礎形式	直接基礎
		橋脚工型式	—		海岸からの距離	2.0km
	施設の目的利用実態等	林道黒羽尻線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、森林施業により頻繁に利用される重要な施設となっている。また、当該林道は市有林のほか、地域住民が民有林等を活用する一般開放路線として、地域住民の利用も多々みられる。				

施設の状態等の概要	点検診断日	令和元年9月21日			
	調査結果	本橋は竣工後43年が経過しており、主桁材やボルトナット、支承部等の鋼材の露出部分や高欄が腐食している状況にある。主桁材等には防食塗膜の劣化が見られ、ボルトナット、支承部等については腐食の進行があることで、今後は機能に支障を生じる可能性がある。高欄は腐食が進み一部機能していない箇所も見られることから、早急な補修対策が必要と判断する。上部コンクリート部分には橋面や地覆等に浮きが見られることから、補修対策が必要と判断する。			
	健全性の診断結果	Ⅲ 早期措置段階	橋梁の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずることが望ましい状態。		
	劣化原因	荷重作用の繰り返しおよび長期にわたる凍結・融解の繰り返し作用による劣化。気象変化（温度差により生じた結露等）や供用年数経過に伴う劣化。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和２年度～令和１１年度		
	内容	鋼部材および支承部の腐食・防食機能の劣化と高欄の著しい腐食が確認されている。今後も車両の頻繁な通行が見込まれるため、現状を判断すると本橋は補修工事が必要である。		
	実施予定時期	高欄の腐食は早急な対策が必要。橋梁区間は一般車両の乗り入れのほか、市有林での施業計画があるため、令和５年度から橋梁改良を計画予定。		
	施設の優先度	③	(優先度の考え方) 開放林道、橋長15m以上であるが健全度Ⅲのため、優先度は「③」とした。	
	対策費用(概算)	橋梁補修費(支承、伸縮装置、高欄取替・鋼材錆取塗装等) 16.2 百万円		
管理方法	・ 支承、高欄等の補修を早期に行う。 ・ 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業等を適切に行う。 ・ 予防保全型点検			

	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年	令和 7年	令和 8年	令和 9年	令和10年	令和11年
対策費用（百万円）				9.0	16.2					1.1
対策の内容・実施時期				委託	橋梁補修					定期点検

備 考										
・ 令和元年度に点検実施。										

※ 1 不明な項目は「不明」と記入
※ 2 施業計画欄は年度、施業種別、面積が分かる場合に記入



下流側から見た戸井川林道 No. 1 号橋



下流側から見た戸井川林道 No. 2号橋



下流側から見た黒羽尻林道 第1号橋